

【1】

ともしび

2012



「〇〇の秋」という言葉を聞いて皆さんが思い浮かべる秋は実に様々だと思えますが、私がこの言葉を聞いて最初に思い浮かべるのは、ズバリ「食欲の秋」です。

秋といえば実りの季節。旬を迎えた野菜や果物を使った様々な料理が、私達の食卓を鮮やかに彩ります。しかし、よくよく考えてみると、それらの料理は一人で勝手に出来上がった訳ではありません。

料理に使われた小さい野菜一つにしても、小さい種や苗木から大事に大事に育ててくれた人がいます。遠い場所から何時間も掛けてここまで運んでくれた人がいます。そして、私達のことを思いながら、手間暇かけて美味しい料理を作ってくれた人がいます。私達の日々の食事は、沢山の人ののおかげで出来ているのです。

〈中野 孝海〉
なかの こうかい

「ブツダと私」



【今月の言葉】

雲を離れた
月のように



今月の言葉は、「月」と「雲」という二つの言葉が用いられています。月は仏教で良く使われる譬えで、私たちが本来持っている汚れのない心を意味しています。仏の心、悟った心の在り方を美しい満月と見立てるのです。この本来の心を隠す間違った思いや苦しみ、悪い行いが雲にあたり、煩惱といったりもします。雲は仏の心を隠してわからないようにする悪い作用の例えとされています。

「以前には悪い行いをした人でも、のちに善によってつぐなうならば、その人はこの世の中を照らす。―雲を離れた月のように。―お釈迦様はアングリマールと呼ばれる修行僧をこう励ましました。アングリマールは沢山の人を殺した犯罪者で、彼は、お釈迦様をも殺そうとしましたがどうしても手にかけることが出来ず、反対に人殺しをやめるよう説得され、とうとう弟子になりました。その後、お釈迦様の下で修行をしましたが、恐ろしい殺人者であったアングリマールを世間は許さず、毎日通りを歩くたびに人々からは石を投

げられ、傷だらけでした。そんな彼に対してお釈迦様は先ほどの言葉をかけて励まし、彼は犯した罪をつぐない立派な修行僧となりました。

私はこの話を読んだとき以前に見たことのあるドイツの映画を思い出しました。題名は「善き人のためのソナタ」。この映画は、世界が東西に分かれた冷戦時代が舞台となっています。主人公の男性はドイツの秘密警察に所属していました。仕事の内容は、反政府的な人物を見つけ、盗聴や監視を行います。その後、証拠を見つけたら逮捕して収容所に送るということをしていたのです。そんな彼が、政府に反抗しようとする人物を見つけました。その人物は作家をしており、作品は政府のやり方を批判する内容でした。彼は作家を見張っていましたが、作家の作る音楽や劇などの芸術を見ていく内に自分の仕事に対して疑問を持ち始めます。ある時彼は、作家が恋人に曲を弾いていたのを聞きました。その曲名は「善き人のためのソナタ」。作家は愛や自由をテ

ーマとし、「この曲を本気で聞いた人は悪人にはなれない」と話しました。これを聞いて彼は作家を助けようと考え、自分の上司に嘘の報告をしたり、証拠を消したりといったことを行います。当の作家はそんなことを知りませんが、徐々に自分が誰かによって助けられていることに気づきます。こんなことをすれば主人公の身も危ないわけですが、自分を犠牲にしてなんとか作家を助け出しました。その後、彼は職を失いチラシ配りに転職しました。その仕事の道すがら書店であの作家の本を見つけます。本の最初のページには彼に対する感謝の言葉が書いてあったのです。主人公の仕事は決してほめられたものではありませんが、自分の行いが誤りであると気づき、良心に従いました。

人は誰でも過ちを犯すことがあります。過ちは過ちとして受け入れ反省し、正そうとすれば自分だけでなく他人も学ぶことができ、より良い方向へ向かうことが出来ます。お釈迦様はこうした姿勢が重要であると私たちに説いて下さっているのです。

私の

ふるさと



第五回 北海道 芦別市^{あしべつ}



北海道大観音と五重の塔

芦別市^{あしべつ}は、札幌から北に約百キロ離れた所にあり、テレビドラマ「北の国から」や「ラベンダー畑」で有名な富良野市の隣に位置します。面積の約九割が山と森林地帯で、美しい自然と澄みきった空が特徴的です。夜には、無数の星がまたたくので「星の降る里」をキャッチフレーズにまちづくりをしています。

写真の観音様と五重の塔は観光施設として建設されました。観音様には世界平和や北海道の発展の願いが込められ、平成元年に日本とインドの僧侶が集まり開眼法要が行われました。高さはなんと八十八メートルもあり、御体内の二十階までの各フロアには様々な観音像や菩薩像が安置されています。

幼いころの私は、観音様の大きさと、さらにその御身体の中に入れるということに大変驚きました。経営難により一時閉鎖や、管理者の変更等ありましたが、ずっと此処にあつて観光客に親しまれ、人々を見守りつづけて欲しいと願っています。

〈日比^{ひび}博英^{はくえい}〉

〒105-8544 東京都 港区 芝 2-5-2 曹洞宗宗務庁内
曹洞宗総合研究センター 教化研修部門 一般教化課程
ともしび法話会

TEL 03-3454-6844 FAX 03-3454-7180

2012(平成24)年 10月1日発行 第368号